

ガンバレ!! フジアザミ



発行
 建設省
 富士砂防工事事務所
 富士宮市三園平1100
 電話 (0544) 27-5221

いま、富士砂防工事事務所ではフジアザミに取り組んでいます。フジアザミは、太く長い根を真っ直ぐ杭のように地中にのぼす特徴があり、他の植物にさきがけて荒れ地に最初に芽を出します。このため、大沢崩れに移植をして、植生復元の足がかりとなることが期待されているのです。

富士砂防工事事務所では平成三年からフジアザミの移植実験をしています。昨年六月には大沢崩れの標高二、〇〇〇メートルのところにフジアザミを移植しました。また、これとともに、やはり富士山に自生するフジハタザオも混ぜて移植しました。これは杭のように土砂の移動に対抗するフジアザミに対して、土砂の移動に適応しながら生活するフジハタザオを混ぜて植えることで、より効果を発揮させようとするものです。また、

昨年の秋、苗や種を自給するために、大沢扇状地にフジアザミの苗床も作りました。厳しい冬の寒さを耐え、春にはそろって芽を出すことでしょう。

これらの植物の優れている点は他にもあります。これらの植物はもともと富士山に生育しているものであり、富士山の地質や気候に順応するため、人工的に移植等をしてうまく育てられる可能性が高いのです。その証拠に、平成四年に大沢崩れに移植したフジアザミは、冬に大量の土砂混じりの雪崩をかぶっても、春になってその土砂を突き破って芽を出し、力強さを見せつけてくれました。

今後は、この苗床から供給される苗や種を使って、大沢崩れへの本格的な工事着手を目指していきます。みなさんのご声援をお願いいたします。



SABO Mt.Fuji懇談会

テーマ

災害体験を後世に伝え、
新たな地域づくりを目指して

平成5年12月24日(金)

富士宮プリンス会館魚勝

今後の砂防事業の展開を考えるため、
地域の方々のご意見・ご要望を伺う場と
して SABO Mt. Fuji 懇談会を企画開催
しています。



富士砂防工事事務所長

三木洋一

我々は美しい富士山から恐ろしい、怖い富士山にもつき合っていかなければいけない。

大沢崩れが始まった時から、先人は大沢崩れとつきあいながら生活の場を持ち続けてきた。その中で先人がしてきた色々な苦勞を掘り起こし、後世に伝えていかなければ、富士山と仲良くつきあっていくことはできない。



専修大学附属高校教諭

小岩清水

■雪氷学会のフォーラム等で、特に富士山の雪代（スラッシュ雪崩）を研究されている。

富士山ほど雪代が発生する条件が整っている山は、他にはない。マイナス35℃の温度が作り出す凍結した斜面、そこに降り積る雪が、降雪量と傾斜角度とを合わせると、雪崩が起きる。雪崩は、雪崩の発生を促す。雪崩は、雪崩の発生を促す。雪崩は、雪崩の発生を促す。



富士市立須津中学校教諭

渡辺弘子

■文芸クラブの仲間が夏休みを利用して現場見学に来て、その作文等が建設大臣賞を受賞し、「富士に生きる」という作文作成の指導をしていただきました。

徒達は富士山に対して今まで以上に興味を持ち、一方知らないことの多さに気づいた生徒は自分がいかに無知であったかを知った。自分達の知りたい事を実際に行動して調べるといふ経験は生徒達に学習意欲を生み人間的に大きく成長する契機となりとても有意義なことだと感じている。

私自身富士市に育ちながら富士山のこと、ほとんど知らなかった。それを思い知らされたのは生徒の作文によってでした。富士山の大沢崩れという名前はだれもが知っているてもその実態を理解していなかった自分を反省し、生徒と共に富士山や周辺地域について勉強していこうと決心した。見学や調査をしていくうちに美しい富士山という表側だけでなく、陰の部分を知り自分たちなりに未来を考えるまでになった。今後は、自然を守りながら、あるいは災害を防ぎながら富士山とどうつきあっていくべきか、生徒と共に考えていきたい。

我々は美しい富士山から恐ろしい、怖い富士山にもつき合っていかなければいけない。大沢崩れが始まった時から、先人は大沢崩れとつきあいながら生活の場を持ち続けてきた。その中で先人がしてきた色々な苦勞を掘り起こし、後世に伝えていかなければ、富士山と仲良くつきあっていくことはできない。



古老座談会

当富士砂防工事事務所では、昨年より潤井川流域上井出、狩宿地区の老人有志の方々にお集りいただき、ご自分が体験された、洪水の記憶や富士山に関わる体験談、又伝承された逸話等の聞きとりを行っています。

昨年度のMt. Fuji 懇談会でも「災害体験を掘りおこし、実感をもって伝える工夫」という提言をいただいたところであり、当事務所では、これら古老の談話を冊子に綴り、地域の方々に災害体験を長く伝承していただけるよう、又今後の砂防事業に有効に活用していきたいと考えています。



座談会風景

る。その雨が低いところにたまった雪を溶かし雨と雪が交じりあった雪代が発生する。富士・富士宮が過去に被ってきた大沢の雪代は地形的に集中型のため下へ来るほどエネルギーを増大させる。自然のままが良いと言ってもそのままにしておけば、富士も富士宮もいずれ住めなくなる。手当てをしながら、時間を稼ぎながら自然の変化に対応できる人間側の社会的な仕組みを変えていくための時間をつくり出していくのが、現在行われている砂防工事と感じている。



郷土史研究者
渡井正二
■今年三月までは富士宮市立鷹丘小学校校長を務められており、特に郷土史の研究をされている。

私の家は潤井川のすぐ近くにある。昭和五十四年の20号台風の時床上一メートルくらい水につかった。その後調べてみると大中里とは、水の豊かなところ、逆に言えば潤井川の氾濫源にあるという事だった。さらに大中里の歴史を見ると江戸時代末期から明治の記録をたどっただけでも毎年のように水害を起こしている事がわかった。これらの被害は、昔からあったにもかかわらず、その怖さが現代に伝承されていないと思う。今後富士山の砂防事業を興味深く見守り、我々は後世にそれを伝えるべきではないか。



富士宮市立第一中学校校長
藤井国利
■教育活動の中で富士山や郷土をより深く理解し、生涯学習に向け生徒の自主的学習として「富士山学習」を進めておられます。

富士山は教育目標や校訓等で教育上の生きた手本になっているが、富士山を子供達が知らない。富士山学習で生徒達は自分達だけで資料を集め、それをまとめ、全体発表で皆の前で発表をする。その努力、苦勞をすることにより生



郷土史同好会
清水明
■現在富士宮南郡公民館郷土同好会に所属、同好会メンバーの方々と潤井川にまつわることを調べておられる。

富士宮市と潤井川のかかわりは非常に深い。子供が遊び四季折々の花が土手に咲き乱れ、人々の豊かな心を育てる場であった。農地の開発や飢饉を救った用水や日本で初めて西洋用紙をすき、水車から発電所へと発展し明治四十年に電灯をともした。これらすべて潤井川の恩恵にあずかったもの。今私達は潤井川を救う為、人々に興味をもってもらうように伝説を調査している。去年、大沢の源頭部を見学してその激しい崩壊ぶりにがくぜんとした。このままにはしてはいけない。この現場をまず皆に見せて状況を把握し、我々がなができるかを考え、行動をおこそうという意識の高まりが重要である。



座長／静岡学園短期大学学長
若林淳之

今や大沢崩れの工事は、従来の災害対策の面からの工事の推進だけではなく、教育の問題、また人づくりの問題へと変化しつつある。これをさらに進めていくと同時にハード・ソフト両面から大沢崩れに対応していく市民の体制・住民の体制をつかっていきたい。



昭和47.7.12 潤井川氾濫による土砂流出状況



新刊紹介

●ほくたちの砂防見学会

「ほくたちの砂防見学会」は、当事務所が実施している大沢崩れの現状や砂防施設の役割を実際目で見る見学会を、現地に行けなくても見学会に参加したような疑似体験をしてもらう事を考え、わかりやすく絵本で表現したものです。

●富士に生きる

この小冊子発刊のきっかけは「祖父への手紙」という中学生の書いた作文との出会いです。ドライブの途中で見かけた大沢崩れ対策施設に興味をもち、砂防への理解を深めていったことが綴られていました。

平成三年より、須津中の生徒が自分達の目で見、聞き、歩きながら感じた作文集です。



これらの冊子は、富士宮市、富士市、芝川町の小中学、公民館、図書館でご覧になることができますので、ぜひ一読を！

第2回 SABO Mt.FUJI懇談会のお知らせ

当事務所では、前回の第1回砂防懇談会に続き、来る3月に第2回 SABO Mt.Fuji 懇談会を開催いたします。興味のある方、多数の参加をお待ちしております。

日時

平成6年3月22日(火)
PM15:00~

メンバー

若林 淳 之 (座長/静岡学園短期大学学長)
小岩 清 水 (専修大学附属高校教諭)
波井 正 二 (郷土史研究者)
藤井 国 利 (富士宮市立第二中学校校長)
渡辺 弘 子 (富士市立須津中学校教諭)
清水 明 (郷土史同好会)
三木 洋 一 (富士砂防工事事務所長)

場所

富士宮高砂殿
富士宮市浅間町3-11 ☎(0544)23-6611

●入場無料

●お問い合わせ：富士砂防工事事務所

(人数に制限がありますのであらかじめ事務所にご連絡ください)



先日、当事務所へ大宮小学校の生徒さんが勉強におとずれました。学校の学習発表の題材に大沢崩れを選び、大沢崩れの現状や砂防事業についての説明を受け、実際に現地の見学も行いました。

情報提供のお願い

●貴重な写真、資料等お持ちの方、また災害体験を有している方の情報提供をお願い致します。

(連絡先)富士砂防工事事務所(建設専門官小林又は、調査課長長井まで)

☎0544(27)5221(内線516又は351)

建設省富士砂防工事事務所

〒418 富士宮市三園平1100 TEL.0544(27)5221

富士宮砂防出張所

〒418-02 富士宮市上井出826-1 TEL.0544(54)0236

富士山を守り地域の安全に貢献する